

第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第12回全体会 議事概要

日 時 令和6年7月22日（月）10:00～12:00

場 所 しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員 小林会長、伊藤副会長、金副会長、ゼヤー委員、松田委員、李委員、タイン委員、コチュ委員、
叔委員、鈴木委員、立川委員、原田委員、朴委員、センブ委員、宗像委員、佐々木委員、
守重委員、山口委員 18名

欠席委員 郭委員、申委員、長谷部委員、毛受委員、チャン委員、楊委員、安藤委員、奥田委員、江副委員、
ブサン委員、陳委員、ドゥラ委員、井上委員、塚本委員 14名

1 開会

2 新宿区多文化共生まちづくり会議審議結果報告について

（1）区長へ報告書提出

会長から区長へ報告書を提出した。

（2）審議結果報告

① 全体構成と第1章から第3章の概要説明

会長から報告書の全体構成と、各章の概要について説明があった。

- ・第1章では、外国人住民の人口や国籍、新宿区が多文化共生施策の取組について記述している。
 - ・第2章では、審議テーマ「地域における多文化共生意識の醸成について」を記述している。
 - ・第3章では、審議経過として、委員意見と多文化共生実態調査を掲載してまとめている。
- また、大久保地域のまち歩きと施設見学についても記述している。

② 提言の説明

会長から報告書の p42 から p45 までの審議経過の要点について説明があった。

会長から報告書の p46 について次のとおり説明があった。

- ・現在、地域活動の担い手が高齢化している。外国人住民の方々にも地域活動の担い手になっていただくことが非常に重要だと思う。また、多文化共生実態調査の結果でも、外国人住民から地域住民と協働したいという意見があり、とても貴重であると思う。
- ・実際に大久保地域センターと図書館を見学させていただき、非常すばらしい取組が行われており、これが新宿区の特徴であると思っている。さらに新宿区が今後努力されることを期待している。

③ 会長からの意見

会長から意見が述べられた。

- ・今期は多文化共生実態調査が実施されており、よりエビデンスに基づいた政策提言を行った。エビデンスに基づいた政策の策定は非常に重要と思う。
- ・実態調査の結果、多文化共生が新宿で進んでいることを確認できたのは非常にうれしく思う。新宿区に日本全国のモデルとして頑張ってもらいたい。
- ・今期は実際に地域を歩き、大久保地域センターや大久保図書館を見学した。施設の取組を見て深い感銘を受けた。地域施設での多文化共生の展開が重要と感じた。
- ・世界の中で日本が選ばれる国になるためには、多文化共生は今後ますます必要と思う。多文化共生のモデルとも言える新宿区には一層頑張してほしいと思う。
- ・今回、皆様にご協力いただき、貴重なご意見をいただいた。本当にすばらしいと思っている。新宿区に

は、今後も政策の実現にご努力いただきたい。

(3) 区長あいさつ

今回、多文化共生実態調査の結果に基づき、様々なご提言をいただいた。提言を活かしながら、より新宿区が皆様にとって暮らしやすくなるよう、努力をしていきたい。

新宿区には、仲間として外国人住民がお住まいになっていることを常識として捉え、当たり前のことと受け止めて一緒に暮らしていく、その中でお互いに快適に過ごすためには何が必要なのか考えながら、区政を推進していければと思っている。

実態調査でも、子育てしている方は、やはり教育のことも心配だと思う。区としては、様々なノウハウも貸していただきながら、外国人のお子さんがいても安心して暮らせる状況をつくっていききたいと思っている。それが、持続性のあるまちの発展につながっていくと思うので、今後もお気づきの点がございましたら、ぜひご指導いただければと思う。

長期にわたりご審議いただいた委員の皆様に、改めて感謝を申し上げると同時に、お取りまとめいただいた小林会長はじめ、両副会長のお二人にも感謝を申し上げる。

本当に皆様、ありがとうございました。

3 委員からのコメント

- ・本当に、自分が勉強になることがすごく多い2年間だった。
- ・日本は選ばれる国になるかどうかという意見もあったが、私は日本を信じている。
- ・住みやすいまちにしていけるために、日本といろんな国の方たちが、知恵を絞っていくとよい。
- ・アフターコロナで外国人が増えている。新宿区は本当に日本を代表するところである。
- ・今後の第7期もぜひ参加させていただきたいと思っている。
- ・多文化共生実態調査に関して、研究者を招いての勉強会をやるとよい。
- ・新大久保のまち歩きのとくに参加できなくて本当に残念だった。
- ・多文化共生実態調査に携われたことはよかった。まち歩きと施設見学は新鮮だった。
- ・地域で交流とかイベントを通じて地域コミュニティの活性化が大事と思っている。
- ・やさしい日本語での説明がすごくうれしかった。
- ・日本には、日本文化や住みやすさ、安全性がある。今後も日本は選ばれる国になると思う。
- ・現場の話やリアルな話を皆さんに情報提供できると思う。次期も会議の役に立てるように努めていきたい。
- ・子どもたちは日本語を早く覚えるが、年齢が上がると難しくなる。
- ・みんな仲良く暮らしていくためにどうしたらよいか、考えるきっかけになった。
- ・大久保小学校では様々な国籍の子どもがいて、それを当たり前と受け止めている。子どもたちが大人になったときはもっと多文化共生が進んでいると感じた。
- ・この経験を活かして多文化共生とは何かということを考えていきたい。
- ・これからも皆と意見を交えながら会議を進めていきたい。
- ・子どもたちは多文化共生を実践できていると思う。いつの日か多文化共生という言葉が特別な言葉でなくなるとよいと思う。
- ・もっともっと多文化共生が進んで、一緒に暮らしやすいまちになるとよいと思う。
- ・委員には地域住民、NPO 団体、日本語学校など様々な方がいて、貴重なご意見をいただいた。委員に恵まれて本当によかったと思う。

4 閉会